

芸術は爆発だ

長光寺住職 福島伸悦

「芸術は爆発だ！」と名言を残したのは画家・故岡本太郎氏です。私の記憶の中にあるのは1970年に行われた大阪万国博覧会のモチーフになった巨大な「太陽の塔」の存在です。芸術作品についてさほど興味もない門外漢な私にとって「太陽の塔」は素晴らしい作品だなんて微塵も思っていませんでした。それが半世紀たった今、「芸術は爆発だ！」というフレーズがふと脳裏に蘇ってきて、良いとも思わなかった「太陽の塔」が目に見えなくなりました。不思議な気持ちですが岡本氏がいかに強烈に私の中に生きていたかという事を考えると、芸術とはすごいなと改めて思いました。

岡本氏は、「芸術というのは生きることそのものである。人間として最も強烈に生きるもの、無条件に生命を突き出し爆発する、その生き方こそが芸術なのだ。そして、人生は本来、瞬間瞬間に、無償、無目的に爆発し続けるべきだ。いのちの本当の在り方だ。」と少し過激的ではありますが、大変示唆に富んだメッセージを残されておられます。

爆発とは、形あるものを破壊することです。つまり創造的な作品を作るためには、これまでの既成観念を取り払わなければ新しいものは生まれませんという事です。芸術は、人間世界のちまちました利害関係や損得勘定を離れ、常に過去を否定し乗り越えてきたからこそ、支持され作品として残ってきたのだと思います。「芸術は、うまくあつてはならない、綺麗であつてはならない、ここちよくあつてはならない」とはまさに作品の中に作為や自己満足があつてはならないということを強調されています。

私たちはというと、過去の思い出や良かったことに囚われてしまいがちです。すると身動きが取れなくなり、新しい挑戦が出来なくなってしまう。水がいっぱいのコップに、さらに水を注いでも零れ落ちてしまいます。新しい水を入れるためには、コップを空にしなければ入らないように、私たちも囚われているものを捨てる勇気を持たなければなりません。囚われない生き方、飄々とした生き方が出来れば少し肩が軽くなると思いませんか。